

東京のLED照明V B 鳥取に研究拠点

ど託
めは委
9月製造

発光ダイオード(LED)照明を手掛けるベンチャー、シーニア&アー

レイ(東京・新宿、畑宏芳社長)は、9月をめぐりに鳥取市に研究開発拠点を開設する。自社工場を持たないファブレス経営で、市内の協力工場に製造委託する予定だ。業務用の蛍光灯型LEDを中心に、半年後に月産10万个を目指す。
100%子会社を設立し、県産業振興機構内に9月をめぐりに入居。消費電力を抑えたり、より強く発光させたりするなどLED照明に関する様々な技術を持つ。節電への関心が高まるなか、工場

やオフィスビル向けの需要を見込む。
畑社長は「隣接する県産業技術センターにLEDの光を調べられる測定器がそろっていることや、LED照明の組み立てなどを請け負える協力企業が集まっていることから進出を決めた」と説明する。

国内向けのほかに、アジアや欧州の協力企業向けに、鳥取から半製品の形で輸出する方針。鳥取の拠点開設から1年間で、グループの売上高10億円を目指す。